北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	特殊講義Ⅱ（韓国歴史）	科目コード	1592	単位数	2
担当者名	水野　俊平	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	C,F	実務経験	無
ナンバリング	DSp604	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

韓国の現代史（１９４５年～現在）の大まかな流れ（人名・事項名・年号を含む）を概略的に理解する。あわせて、戦後の日韓関係史の概略を理解する。

到達目標

①韓国の現代史の概略を学び、南北分断の原因、韓国（北朝鮮）の建国、朝鮮戦争の勃発、戦後の復興と経済発展、民主化運動の高揚、民主化の過程、現在の保守進歩の対立の背景などについて理解する。②韓国の歴史関連映画を視聴し、その内容を理解する。③あわせて戦後の日韓関係史、特に国交正常化過程について学ぶ。④日韓の歴史的懸案を一つ選び、その経緯を把握し、理解する。

授業内容

1週目 授業の概要を説明し、教材を配布する。歴史関連映画（１）を視聴し、その内容を理解する。
2週目 １９４５年の「光復」と、「朝鮮民主共和国」、ソ連軍の侵攻、米軍の進駐と「米軍政庁」設置について学ぶ。韓国関連映画（１）を視聴し、その内容を理解する。
3週目 朝鮮の分断の原因の一つになった、「光復」に至る前のカイロ・ヤルタ・ポツダム会談における列強の駆け引きについて学ぶ。韓国関連映画（１）を視聴し、その内容を把握する。
4週目 １９４５年の「モスクワ三相会談」と「信託統治」をめぐる賛反、南北分断の予兆になった単独選挙実施・単独政府樹立について学ぶ。歴史関連映画（２）を視聴し、その内容を把握する。
5週目 １９４８年８月の大韓民国樹立の過程、９月の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）樹立と南北分断、南北における農地改革について学ぶ。歴史関連映画（２）を視聴し、その内容を把握する。
6週目 「反民特委」による親日派処罰の失敗、朝鮮戦争の勃発と戦争の推移、休戦までを学ぶ。歴史関連映画（２）を視聴し、その内容を理解する。
7週目 李承晩政権下で行われた「抜粋改憲」「四捨五入改憲」と４・１９革命を学ぶ。歴史関連映画（３）を視聴し、その内容を把握する。
8週目 ４・１９革命後の第２共和国体制確立から５・１６軍事クーデター、日韓国交正常化、ベトナム派兵までを学ぶ。歴史関連映画（３）を視聴し、内容を把握する。
9週目 経済成長と「三選改憲」、「１０月維新」による維新体制への移行などを学ぶ。歴史関連映画（３）を視聴し内容を把握する。
10週目 ７・４南北共同宣言、民青学連事件、維新下での「緊急措置」による民主化運動の弾圧などを学ぶ。歴史関連映画（４）を視聴し内容を把握する。
11週目 維新体制の確立から１０・２６政変、１２・１２クーデターと「ソウルの春」について学ぶ。歴史関連映画（４）を視聴し内容を把握する。
12週目 光州事件、新軍部勢力の政権掌握、全斗煥政権の発足、民主化運動の流れなどを学ぶ。歴史関連映画（４）を視聴し内容を把握する。
13週目 ６・２５民主化宣言、８７年の大統領選挙と盧泰愚政権の発足、８８年の総選挙と「民自党」の結成、北方外交などを学ぶ。歴史関連映画（５）を視聴し内容を把握する。
14週目 金泳三政権発足と諸改革、IMF経済危機、金大中政権の発足と南北首脳会談などを学ぶ。歴史関連映画（５）を視聴し内容を把握する。
15週目 金大中政権以後、盧武鉉・李明博・朴槿恵・文在寅・尹錫悦まで歴代政権の治績を大まかに見渡す。歴史関連映画（５）を視聴し内容を把握する。１週から１５週にわたって学んだ内容（主に韓国現代史）を復習し、その後、試験を実施する。あわせて外来講師による特講（１９９０～２０００年代）を行う。
16週目 試験結果を通知し、やむを得ず、１５週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行う。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備学習(予習・復習)等の内容①教材原文（日本語）の内容を要約して発表できるように準備する。原文の中にある用語（韓国語）も読めるようにしておく。②①で準備した内容をmanabaのレポートとして提出する。これが予習に当たり、６０分程度の時間をかけることが望まれる。③授業で学んだ内容をもとに年表を作成し、Googleドライブ上の確認クイズを受験する。これが事後学習にあたり、６０分程度の時間をかけることが望ましい。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法：中間試験２５%＋期末試験２５%＋授業における発表（課題、レポートを含む）２０%＋絵画内容の確認クイズ・確認クイズ２５%＋映画の確認クイズ５%で評価する。 確認クイズで評価に差ができるので、注意すること。

履修上の留意点

与えられた教材原文は必ず参考資料で補充して、発表の準備を行い、韓国語の用語については読める（発音できる）ようにしておくこと。履修に当たっては韓国語科目の履修が前提となる。韓国語を履修せずに本科目を履修する場合、授業参加に相当な困難を伴うので、十分留意すること。

課題に対するフィードバックの方法

受講者から提出された年表の内容は授業中に添削し、返却する。オンラインで実施される映画内容の確認クイズ、確認クイズ、中間・期末試験の点数は学生本人がすぐに確認できるようにする。提出されたレポートは講師がとりまとめて、内容を受講者全員に配布する。

テキスト

チェ・ヨンボム、イ・ウヒョン（２０１２）『一夜で読む韓国近現代史』（ペーパーロード）を要約した自家版の教材を用いる。原価販売で８００円。

参考書

水野俊平（２０２１）『韓国の歴史』河出書房新社（2，２５０円）

更新日付

2026/01/29 09:52